

第63回宮崎県学校体育研究発表大会

# 中学校部会

## 1 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを  
 実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方  
 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

## 2 日 程

	9:00	9:50	10:45	11:45		13:30	14:30	15:00	16:30					
	8:40	9:40	10:35	11:35	12:35		14:20	14:45	16:00					
受付	開 会 行 事  (40分)	視 点 説 明	公 開 授 業  (45分)	小 学 校	公 開 授 業  (50分)	特 別 支 援	公 開 授 業  (50分)	中 学 校	昼 休  食 憩  (55分)	公 開 授 業  (50分)	高 等 学 校	指 導 な 助 が 言 り (全 体) (15分)	授 業 研 究  (4部 会) (60分)	閉 会 行 事

### ① 公開授業

種 別	学 年	単 元	発 表 者
中 学 校	第3学年	球 技 (ゴール型：サッカー)	門 川 町 立 門 川 中 学 校 教 諭 徳 永 晃 司

### ③ ワークショップ型授業研究

部 会	役 職	氏 名
中 学 校	指導助言者	宮 崎 大 学 教 育 学 部 教 授 日 高 正 博
	司 会 者	日 南 市 立 南 郷 中 学 校 教 諭 中 屋 敷 卓
	記 録 者	五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校 教 諭 丸 山 大 輝
		延岡市立西階中学校 教 諭 徳 淵 喬
進 行	川南町立唐瀬原中学校 教 諭 甲 斐 一 成	



## ア 事前研究会からの変化

### (1) 球技:ゴール型「サッカー」

#### 事前研究会反省

パスやトラッピング、ドリブルなどの個人技能を高める運動が必要である。

- ・ ゲームでは、個人技能の個人差を小さくすることをねらいとしてレジ袋に新聞紙を詰めたボールを使用した。
- ・ 毎時間の導入において、個人技能を高めるためのドリルを入れたことで、技術の向上につながり、ゲームに生かすことができた。(その日行うトレーニングに応じて、内容を変化させるなどの工夫を行った。)
- ・ パスのポイント(強さ・方向・タイミング)を常に言い続け、生徒自身が一球一球のパスに対して、瞬時に何が改善すべき点なのか考えるよう促した。

#### 事前研究会反省

パターン練習(ワンツー・オーバーラップ・スイッチ)の動きを理解できていない。

- ・ タブレット上に動きの解説シートを載せ、シートを見ながら、生徒同士でボールを扱わずに、動きだけの確認を行った。そのことで、教師からの助言ではなく、生徒同士の対話の中で、理解を深めることができた。
- ・ 守備者を加え、なぜこれら3つのパターンを身に付ける必要があるのかを考えさせたことで、動きの選択肢を増やすことにつながり、事前研究会よりも圧倒的に運動量が増えた。

#### 事前研究会反省

動画視聴だけで振り返りができるのか。

- ・ 2対1+1のローテーションの中に1分半の分析の時間のみであったので、振り返りが十分ではなかった。そのため、コーチングシートの内容を活用するために、2対1+1の後に、動きの分析の時間を全員一斉に確保した結果、対話が増えて2対1+1の振り返りができた。

#### 事前研究会反省

タブレットの効果的な活用をもっと工夫してみてもどうか。

- ・ Google フォームを活用したことで、学習シートの確認や自己評価をスムーズに行えるようになり、達成度や生徒の感想から、次時の授業の展開を考えることができるようになった。

## イ 視点に対する最終的な成果

- (1) 学習内容系統図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか。
- ・ 単元計画を作成する際、該当学年で学習すべき内容を把握することができ、精選した学習内容を単元計画の中に見通しをもって配置することができた。
  - ・ 学習指導案を検討する中で、評価の基準を高く設定してしまい、次の学年の学習内容やねらいとなってしまうことがあった。その際、学習内容系統図を使って、各学年の学習内容を再確認し、その学年に適した学習内容と評価につなげることができた。
  - ・ 「努力を要する」状況と判断される生徒への手立てを検討する際にも、前の学年の例示を確認し、段階的な指導方法を取り入れることにも活用でき、個別最適な学びの実現につなげることができた。
- (2) 授業の目標を達成するために、授業の展開における効率的で効果的な ICT の活用ができていたか。
- ・ カメラ機能で撮影した映像を確認することで、自分の動きを客観的に捉えられただけでなく、ペアによる話し合いが活発的に行われるようになったので、技能向上につながった。
  - ・ 授業で扱うポイントの確認や振り返りの全てを Google フォームで効率的に行ったことで、その他の活動の時間を確保することができた。また、教師側の授業の振り返りとして、生徒が提出したデータを即座に確認し、次時の活動に役立てることを確認することができた。
  - ・ 一人一台のタブレット端末を活用したことで、授業の目標に対する個人の振り返りに取り掛かりやすく、スムーズに話し合い活動やその後の活動に取り組むことができた。

■授業の様子（第2学年 球技ゴール型：サッカー）



ドリル練習に取り組む様子  
(2人1組でのボール操作練習)



ゲームⅠの様子  
(2対1+1に取り組む)



ゲームⅠの様子  
(コーチングシートを使って動き様子を伝える)



撮影に取り組む様子  
(1人1台のタブレット端末活用)



話し合い活動の様子  
(2対1+1の分析に取り組む)



ゲームⅡの様子  
(2対2に取り組む)

# ワークショップ型授業研究会について

## 【中学校部会：サッカー】

### 1 日程 15:00～16:00 (60分)

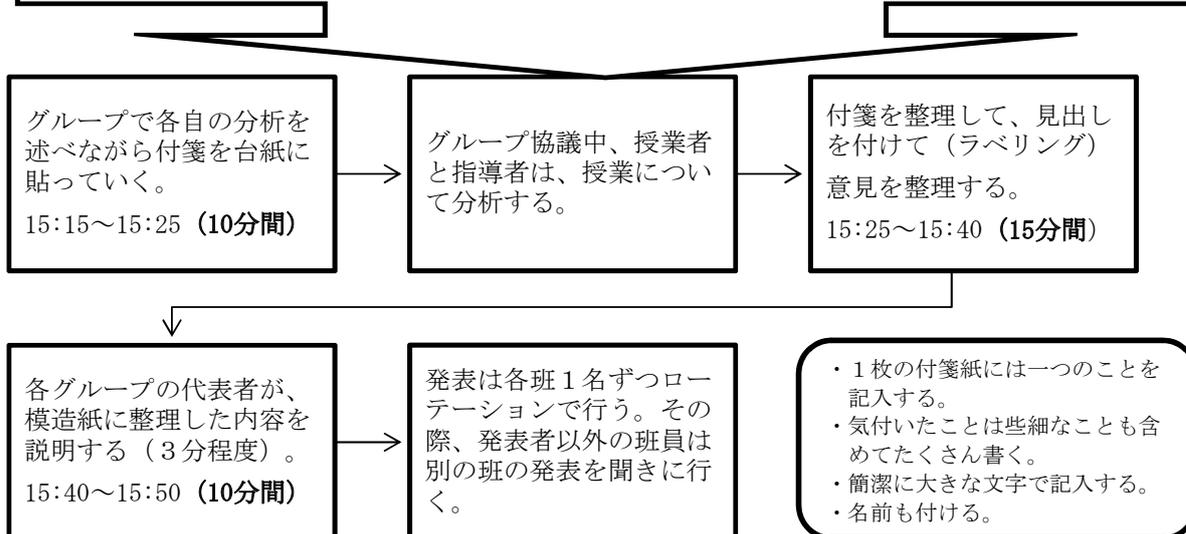
	時間	内容	授業者	助言者
15:01～	5分	授業者反省 ・ 門川中学校 徳永 晃司 教諭	着席	着席
15:06～	5分	質疑・応答	着席	着席
15:10～	5分	ワークショップ型授業研究会の説明	着席	着席
15:15～	35分	ワークショップ ★ 中学校部会公開授業 「球技：サッカー」 1 カリキュラム・マネジメントの工夫 ○ 学習内容系統図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか 2 指導方法の工夫 ○ 授業の目標を達成するために、授業の展開における効率的で効果的なICT活用ができていたか	授業反省	周回
15:50～	10分	指導講評 ・ 宮崎大学教育学部 日高 正博 教授	着席	着席

### 2 授業参観の視点

<p>【中学校部会公開授業「第3学年 球技：サッカー」】</p> <p>1 カリキュラム・マネジメントの工夫</p> <p>○ 学習内容系統図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか</p> <p>2 指導方法の工夫</p> <p>○ 授業の目標を達成するために、授業の展開における効率的で効果的なICT活用ができていたか</p>
--

### 3 ワークショップの進め方

<p>※授業開始前に付箋紙を配付する。</p> <p>○付箋紙へ授業参観の視点で記入をする。(主観を避け、事実を客観的に表現する。)</p> <p>【青色の付箋紙】・・・『生徒の良いところ』『教師の良いところ』</p> <p>【赤色の付箋紙】・・・『生徒の改善点』『教師の改善点』</p> <p>【黄色の付箋紙】・・・『質問したい点』『疑問点』</p> <p>① 授業参観時に、模造紙(学習指導過程拡大)に黄色の付箋紙を貼り付ける。</p> <p>② 研究部員で、付箋を整理し、授業研究会までに内容を授業者に伝える。</p> <p>③ 授業者は、その質問に沿って、応答する。</p> <p>※ ワークショップ時に新たな質問点・疑問点が生じた場合は、黄色の付箋紙を活用する。</p>
--



## 授業者振り返り

門川町立門川中学校 徳永 晃司 教諭

- 男女共習や人数の多さに苦勞したが、場の工夫やボールの工夫などを行い、対応することができた。
- コーチングシートの工夫を行うことができた。それにより、生徒が具体的にアドバイスをしたり、動きの選択をしたりするなどのつながりができた。
- 生徒達が楽しそうに取り組む姿が見られたので、良かった。
- グーグルフォームを活用してまとめを行った。それにより、グラフとなって見ることができるので、習熟度が分かりやすかった。
- テキストマイニングを活用してまとめることで、生徒が出した意見が分かりやすかった。
  
- 球技が苦手な生徒に対して、どのくらいの知識を落とし込めたか不安である。
- 生徒に対して、具体的で分かりやすい伝え方やアドバイスのタイミングを今後も検討していきたい。
- 全体の90%が目標達成できて良かったが、残りの10%の目標達成ができなかった生徒に対してどう働きかけをしていくかが課題である。
- 目標達成できなかった生徒の多くがオーバーラップを理解できていなかった。

## 質疑応答

	内容
質疑	ウォームアップの胸トラップや足裏ドリブルをやる意味は何だったのか。
応答	単元を通して身に付けてほしい技術であったため。
質疑	3つの動き以外で教えていることはあるか。
応答	ない。
質疑	2対2で狙った動きができるように仕向けるための手立ては何かあったのか。
応答	前々時の2対1のゲームの時に動きの確認をしている。
質疑	時折見かけたドリブル突破は本時においてどうなのか。
応答	サッカーを行う以上、ありだということで指導している。
質疑	新聞紙ボールの良いところは何か。
応答	転がり過ぎないことや女子が怖がらない良さがある。また、失敗につながりにくく、操作しやすいのも良い点である。
質疑	新聞紙ボールで2対2をする理由は何か。
応答	新聞紙ボールでの2対1の動きを2対2で確認するため。
質疑	今後どのタイミングで正式なボールに変えていくか。
応答	次の次の時間から正式なボールにする予定である。
質疑	動画分析は、1台後ろ、1台横の方がDFの重なりが分かるのではないか。
応答	今後参考にしていきたいと思う。
質疑	サッカー部員は何人くらいいるのか。
応答	1人。
質疑	練習しているチームとゼッケンの色のチームはどちらが仲間か。グルーピングについて教えてほしい。
応答	今回はペア学習が主であり、次回は変える予定である。

## 指導講評

宮崎大学教育学部 日高 正博 教授

- ・ サッカーは男女共習しにくい競技の一つであると思うが、教師、男子生徒、女子生徒共に楽しそうに活動する姿が印象的であった。

- ・ ゲームⅠの後、女子生徒同士で(動画を見ながら)良い会話がなされていた。

Aさん:「(画面を指さしながら)この時、こっちではなくこっちに行く。」

Bさん:「ああ。そうか。逆方向に動かんといかんね。」

この会話の後、次のゲームで実演することができていた。まさに「分かる」と「できる」が統合された瞬間である。

- ・ 取り上げた生徒間の会話が生まれたのは、教育内容が「選択する動き」として明示されていたからであろう。

- ・ 学習内容系統図の中に具体的な戦術行動としての教育内容を落とし込むと、この図はもっと良くなる。具体的な戦術行動の体系化はすでに研究論文として公表されているものもあるので、それらの知見を活用していただきたい。

- ・ ゲームの後、観察していた生徒が伝える場面で、コーチングシートの中身が選択できるようになっていたのも、コーチングがしやすくなっていた。さらに、このコーチングシートの中身が教育内容と関連づいていたので、子どもたちの意識はあちこち行かずに、学習内容として焦点化されていた。

- ・ 最後のまとめで、生徒達の感想を書き込むところがあったが、生徒の感想を一人でも聞きたかった。「生徒が発表する→先生が突っ込む→生徒が考えて答える」といったやりとりの中で体育ならではの思考力、判断力、表現力などが身に付く。

- ・ 欲を言えば、今日の授業の姿が「4・4・4」の真ん中の「4(小学校5年~中学校2年)」の中で見られると良かった。

- ・ 男女差が個人の技能差の中に落とし込まれていた。その個人技能差が、教具や場の工夫を含めた「教材」の工夫をすることで、自然な形で吸収されていた点が素晴らしい。

・ ワークショップの様子

